



曹洞宗大学から 駒澤大学へ

2025年4月7日(月)~7月31日(木)

図書館横 駒澤大学の門柱

昭和2(1927)年の駒澤大学ポスター(完成予想図) 学校法人駒澤学園所蔵

はじめに

令和7(2025)年は、大正14(1925)年に本学が「大学昇格」してから100年の節目を迎える年です。

「大学昇格」とは何でしょうか?ここでいう「大学」とは、戦前の制度である、いわゆる旧制大学ですが、本学の前身である「曹洞宗大学」は、「大学」と冠しながらも、制度上は「専門学校」として設置されているものでした。

それが「大学昇格」により、それまで国立大学にしか認められていなかった「学位の授与」を行うことができるようになり、国立大学に準じる機能を有する大学となったのです。

大正7(1918)年に公布された「大学令」によって大学設立の門戸が広げられると、曹洞宗大学も専門学校から大学への昇格を目指して活動を始めました。そして、大正14(1925)年3月、新たに高等教育機関として認可され、同時に名称を「駒澤大学」へと変更しました。

本特集展では、100年前の「駒澤大学」誕生の過程を、残されている資料から紹介いたします。

1. 大学令の制定と私立大学

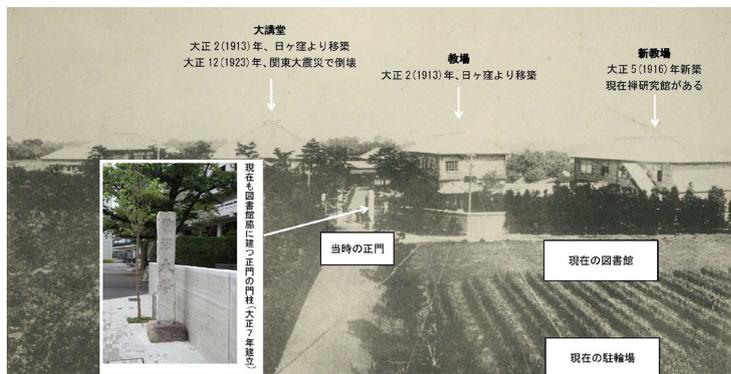
第一次世界大戦後、高等教育機関への進学率が激増し、政府は帝国大学の学部・学生定員・施設などの大幅な拡張を行なった。しかし、その費用が膨大であることなどから、私立学校に対して国立大学と同等の地位や機能を与えることで数を増やし、増加する大学進学者に対応する方針へと転換させる。

大正7(1918)年に制定された大学令により、従来の官立総合大学(帝国大学など)に加えて、単科大学や府県・私人(財団法人)による大学の設置を認めた。これは、高等教育機関の門戸を広げるものであった。その後、様々な学問を教授する女子高等教育機関や独自の理念をもった私立学校が設立されていくこととなる。

ただ、この私立大学設立の認可には、下記のような経済的に厳しい条件が付けられていた。各学校は、寄付などを募ることによって、これに対応していくこととなる。

大学令による大学設立認可を受ける条件

- ① 経営母体としての財団法人の設立
- ② 財団法人が経営上必要な資金や基本財産(敷地など)の保有
- ③ 一定数の専任教授の確保と設備(教場や図書館など)の充実
- ④ 政府への50万円以上の供託金納入



大正8(1919)年(「大学令」公布の翌年) 曹洞宗大学正門から



現在のようす 令和7(2025)年3月

2. 聯合(連合)大学構想

駒澤大学は大学令制定後、専門学校から私立の単科大学への昇格を目指して運動を開始した。しかし、大学への昇格には、一定数の教員や施設の確保や文部省への供託金の納付といった経済的な負担となる条件を満たす必要があった。そこで、各仏教宗派との連合による大学設立構想が浮上した。曹洞宗を含む各仏教宗派とも共同して大学を設立することにより、大学昇格に際しての経済的な諸問題を軽減することを目的としたものであった。

しかし、大正13(1924)年刊行の本学学生有志による機関誌『第一義』(大学昇格促進号)にみられるように教員・学生らはこの構想に反対し、曹洞宗大学単独での大学昇格を目指した。例えば、中根環堂教授は「聯合大学の空想を駁す」という記事を書いている。中根は、浄土真宗ではすでに単独での大学昇格を果たし、日蓮宗でも同様に単独昇格の手続き中であることを例に挙げ、曹洞宗においても単独での大学昇格が可能であることを主張した。

結局、聯合大学は浄土宗・真言宗豊山派・天台宗によって行なわれ、大正大学が設立された。一方、曹洞宗など他の宗派は、単独による大学昇格を行なうこととなった。

2つの「新大学案」

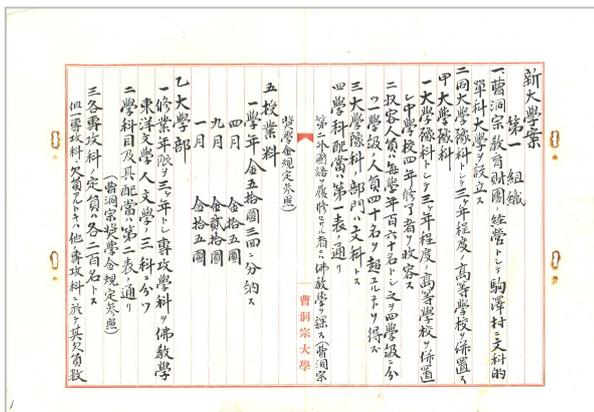
「新大学案」には、大学昇格に当たっての要項が6枚に渡る罫紙に記されている。内容は「第一 組織」「第二 資金」「第三 資金使用ノ順序」「第四 新設備費用ノ内容」「第五 事業遂行予定」に「曹洞宗奨学金規定」が付されている。

本資料は現在2つのものが確認されている。1つは本学総務部で保管されている資料(「学校法人駒沢大学 設置・増設認可書原本綴(学部・大学院)」)で、もう1つは近年、新潟県南魚沼市龍泉院より寄贈を受けた資料である。両者とも内容は同じだが、決定的に異なるのは新大学の構想として付されている図面である。図書館・教場・大講堂の図面があるが、前者には新図書館(現在の当館)の図面や、後に完成する教場(1・2号館)・大講堂に近似している図面が付されているのに対し、後者には全く異なる姿の図書館・教場・大講堂の図面が付されている。

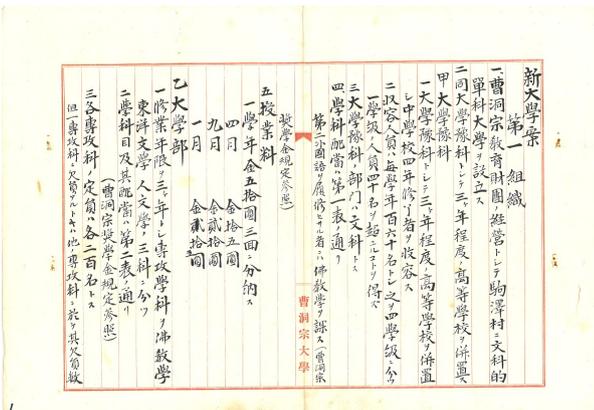
このことから、後者は大正12(1923)年の関東大震災前に設計された図面であり、前者は震災の被害を考慮し、新たに設計された図面と推測される。

大学昇格の計画準備中に起きた関東大震災を機に、新大学の設備も大きく変更を余儀なくされたことがうかがえる。

【出品資料】



新大学案① 関東大震災以前 龍泉院寄贈(当館蔵)



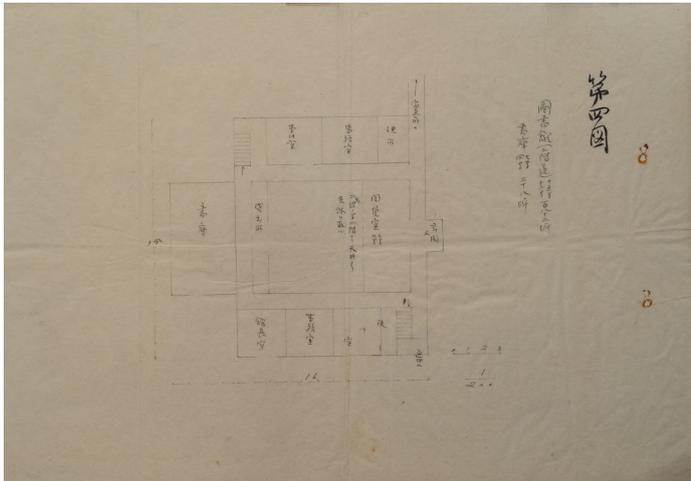
新大学案② 関東大震災以後 本学総務部蔵

なぜ新潟県にもう1つの「新大学案」が?

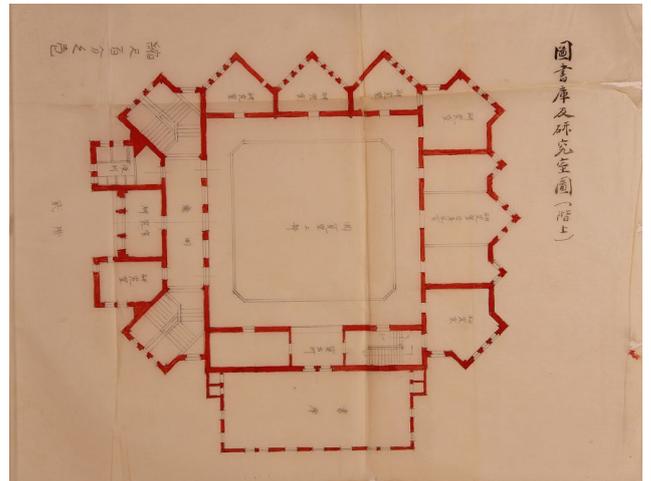
龍泉院がある南魚沼市には、雲洞庵という曹洞宗の古刹があり、当時の曹洞宗管長新井石禅は雲洞庵の住職(大本山總持寺住職も兼任)であり、近隣の龍泉院住職が新井石禅の侍者を務めていたことから、龍泉院に保管されていたものと推測される。

大学昇格略年譜

| | | |
|--------|--------|-----------------------------|
| 大正8年 | 4月1日 | 文部省、大学令施行 |
| (1919) | 11月4日 | 曹洞宗宗議会、曹洞宗大学の単科大学昇格を否決 |
| 大正9年 | 4月9日 | 曹洞宗教育振興会を設立、啓白文・宣言書を発表 |
| (1920) | 10月26日 | 臨時教育調査会の昇格に関する調査報告書提出 |
| 大正10年 | 4月 | 『第一義』、「曹洞宗大学昇格の必要に就いて」を掲載 |
| (1921) | 7月1日 | 曹洞宗教育財団の設立を文部省に申請 |
| | 9月21日 | 曹洞宗教育財団の設立が文部省より認可 |
| | 10月1日 | 曹洞宗教育興隆会を設立(財団の基金勸募を目的とする) |
| | 11月 | 曹洞宗宗議会にて昇格案通過 |
| 大正11年 | 11月3日 | 曹洞宗大学、創立40周年記念式典を開催 |
| (1922) | | 大学昇格を決議、学友会(同窓会の前身)を組織 |
| | 11月中旬 | 学生大会を開き、曹洞宗教育興隆会の基金勸募の活動を決議 |
| | | 連合大学設立に反対する決議 |
| 大正12年 | 9月1日 | 関東大震災発生 |
| (1923) | 3月 | 『第一義』昇格運動促進号が発刊 |
| | 3月30日 | 曹洞宗教育財団、文部省に大学設立の認可を申請 |
| 大正13年 | 3月30日 | 文部省、単科大学の設立認可 |
| (1924) | 31日 | 「駒澤大学」への名称変更認可 |
| 大正14年 | | 『宗報』号外にて初の「駒澤大学」の募集広告を掲載 |
| (1925) | 11月16日 | 駒澤大学、設立披露祝賀会を開催 |
| 昭和2年 | 5月1日 | 曹洞宗教育興隆会、「駒澤大学ポスター」を各寺院に頒布 |
| (1927) | | |



新大学案① 図面 図書館(二階建)書庫図面



新大学案② 図面 図書館庫及研究室図

3. 大学昇格運動の展開

大正7(1918)年ころより、曹洞宗大学においても教職員や学生らを中心として、大学への昇格運動が開始された。

当初、曹洞宗では、認可の条件を満たすことが困難であるなどの判断から、他宗との連合大学が構想されるなど、曹洞宗大学単独での大学昇格には消極的な意見もあった。結局、大学昇格は決定され、大正10(1921)年に曹洞宗教育財団が設立された。また、曹洞宗教育興隆会という、設立資金勧募のための団体が成立し、大学昇格のための条件を整えていった。

一方、教職員や学生らは、大学への昇格運動を積極的に展開した。大正11(1922)年11月3日に開催された開校40周年記念式典では、学生らによって大学への昇格が決議され、学友会(同窓会の前身)が組織されるなど、昇格運動を強力に推進した。

しかし、大正12(1923)年9月1日に発生した関東大震災によって、大講堂は全壊、図書館書庫にも亀裂が生じるなど大打撃を受けた。これは大学認可申請直前のことで、昇格の条件である施設の充実が満たせないことから、一旦は見送られることとなった。その後の復旧は迅速に行なわれ、ついに曹洞宗教育財団は、大正13(1924)年3月30日に大学設立の認可を文部省に申請した。

【出品資料】

大正10(1921)年「曹洞宗大学昇格の必要に就^つて」(部分)

『第一義』第25巻8号／大正10(1921)年4月発行／本学図書館蔵

曹洞宗教育振興会による寄稿。曹洞宗教育振興会とは、曹洞宗教育財団の確立、教育機関の改善、教育に関する調査を目的として大正9(1920)年に設立された組織である。

内容は大学に昇格する目的として、大卒資格のある宗門僧侶を養成すること、在家の人にも高等教育を施すことで仏教信者を養成すること、仏教的信念を持った教育家を養成すること、人文学科の設置によって新聞雑誌の経営者や文士を養成すること、4つの項目に分けて、5頁にわたり力説している。

大正11(1922)年「曹洞宗大学創立四十周年記念大会概況」(部分)

『第一義』第26巻15号／大正11(1922)年11月発行／本学図書館蔵

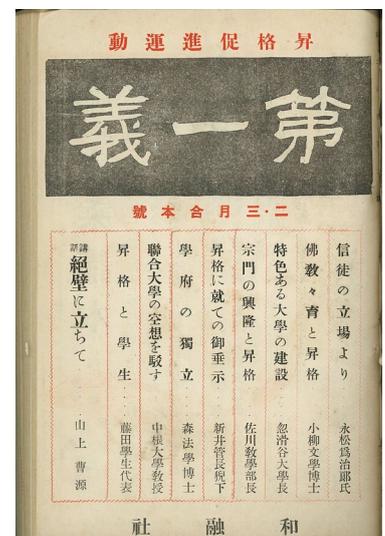
大正11(1922)年、曹洞宗大学は創立40周年を迎え、11月3日に記念大会が行なわれた。本記事は本会の概況について記されたものである。本大会は創立40周年を祝うものであったが、披露された祝電には大学昇格を支持するものも寄せられた。また、学友会(同窓会の前身)によって、「教学の振興を図るため曹洞宗大学の昇格を促進すること」が決議された。

このように、曹洞宗大学40周年を記念として、さらに大学昇格が推進される機運が高まった。

大正13(1924)年 中根環堂「聯合大学の空想を駁^はす」(部分)

『第一義』第28巻3号／大正13(1924)年3月発行／本学図書館蔵

「昇格促進運動号」と銘打たれた大正13(1924)年2・3月合本号では、大学昇格の意義や昇格運動を擁護する8本もの論述が掲載されている。檀信徒代表・曹洞宗管長新井石禅・忽滑谷快天学長をはじめとする教授陣・学生代表など様々な立場から寄稿している。



大正13(1924)年3月『第一義』「昇格促進運動号」表紙 本学図書館蔵

中でも中根環堂教授は、浄土真宗ではすでに単独での大学昇格を果たし、日蓮宗でも同様に単独昇格の手続き中であることを例に挙げ、曹洞宗においても単独昇格が可能であることを主張した。

結局、聯合(連合)大学は浄土宗・真言宗豊山派・天台宗によって行なわれ、大正大学が設立された。一方、曹洞宗や日蓮宗など他の宗派は、単独による大学昇格を行なうこととなった。

4. 「曹大」から「駒大」へ

大学設立の申請は、1年後の大正14(1925)年3月30日に文部省から認可され、ついに大学昇格運動は実を結んだ。さらに翌31日、曹洞宗大学から「駒澤大学」への名称変更も認可された。「曹洞宗」の名称から地名に変えることで、一般の学生を募集しようとしたものと考えられる。翌4月発行の『第一義』(学生有志による機関誌)には、初の「駒澤大学学生募集」の広告が掲載された。

駒澤大学には、仏教学科・東洋文学科・人文学科からなる文学部(在籍期間3~6年)のほか、現在の大学院に相当する研究科(在籍期間3年以上)、および予科(在籍期間3年)が設けられ、生徒を募集した。

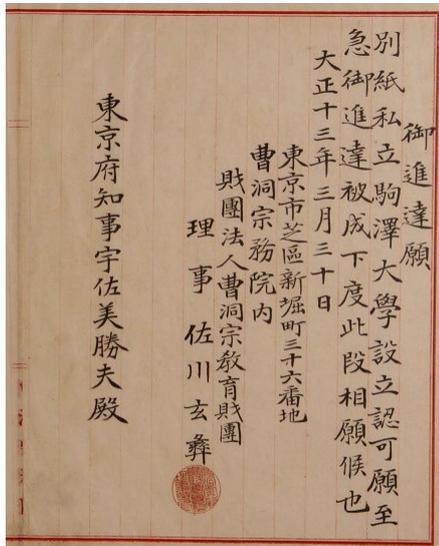
また、同年11月16日からは、3日間に渡って設立披露祝賀会が開催された。会は、曹洞宗管長、永平寺貫首、總持寺貫首ら多くの来賓を招いて、運動場(現在の3号館・種月館の位置にあたる)で盛大に挙行され、新聞各社への宣伝も行なわれた。こうして、「曹洞宗大学」は寺院出身者を対象とした曹洞宗の僧侶養成を目的とした専門学校から、「駒澤大学」という文系学問を中心として、一般学生も入学することのできる私立の単科大学へと、その性格を大きく変化させることとなった。

【出品資料】

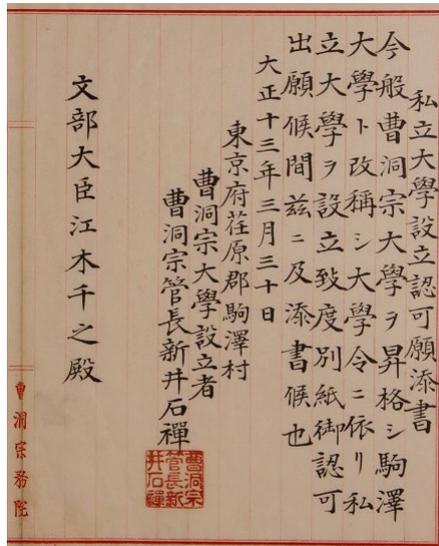
大学昇格のための認可申請書類(3通) 大正13(1924)年/本学総務部蔵

大正13(1924)年3月30日付けで提出された曹洞宗大学から駒澤大学へ昇格・改称するための認可申請書類3通。「学校法人駒澤大学 設置・増設認可書原本綴(学部・大学院)」と題された簿冊に綴られ、本学で大切に保管されてきた貴重な原本である。公開されることは希少な機会である。

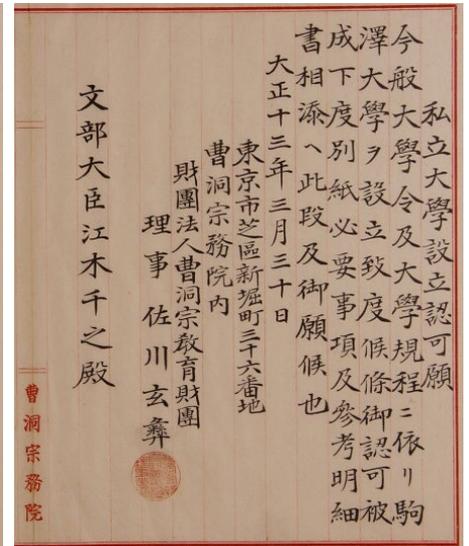
①は財団法人曹洞宗教育財団理事佐川玄彝(のち1944年に大本山永平寺住職を務める)が、東京府知事宇佐美勝夫に、「駒澤大学」設立認可を願ひ出たもの。②は同じく佐川玄彝が、文部大臣江木千之に提出した認可願。③は曹洞宗管長新井石禪(当時大本山總持寺住職を兼任)が、文部大臣江木千之に提出した②の添書となる。



①御進達願
曹洞宗教育財団理事 → 東京府知事



②私立大学設立認可願
曹洞宗教育財団理事 → 文部大臣



③私立大学設立認可願添書
曹洞宗管長 → 文部大臣

駒澤大学ポスター 昭和2(1927)年/学校法人駒澤学園蔵

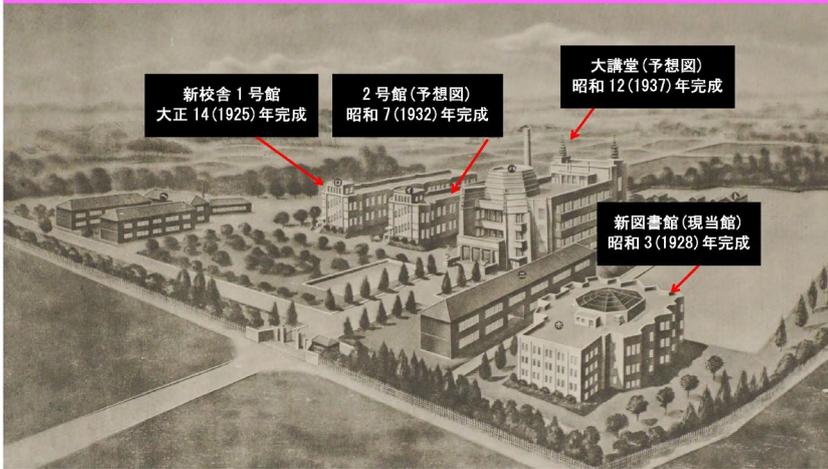
昭和2(1927)年、大学昇格を果たした後、曹洞宗教育興隆会は会費勸募(寄付)促進のほか、学事の報告と教学の宣伝を兼ねて本ポスターを各寺院に配布した。表には、学内施設建設計画に基づく完成予想図と駒澤大学の特色・組織・内容・校舎についての説明文が印刷されている。

また添書には、この図面のように完成するためには、各寺院住職・檀信徒などのさらなる勸募を切望し、一般参詣者の目につく所に掲げ、説明してほしい、との旨が記されている。

大学認可条件の文部省への供託金は、半額納入後、さらに半額を残り3か年で分納するという規程であった。昇格後も、興隆会が資金募集に奔走している様子が見える。

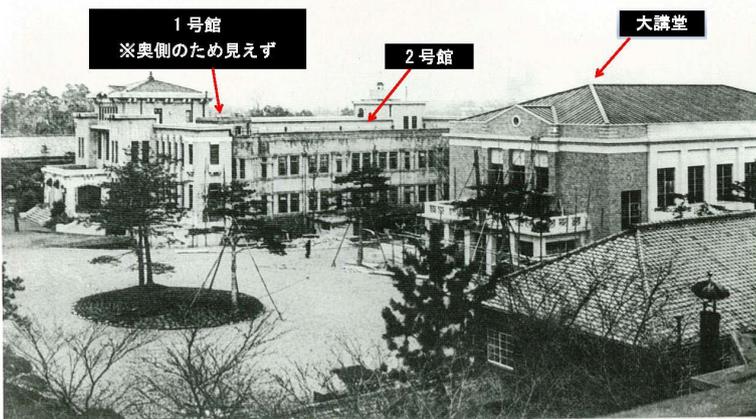
本ポスターは今回の展示に当たり、学校法人駒澤学園(駒沢女子大学・高校・中学等を含む学校法人)から格別のご計らいでお貸しいただいた、貴重な資料である。

昭和2(1927)年 駒澤大学ポスターにおける完成予想図

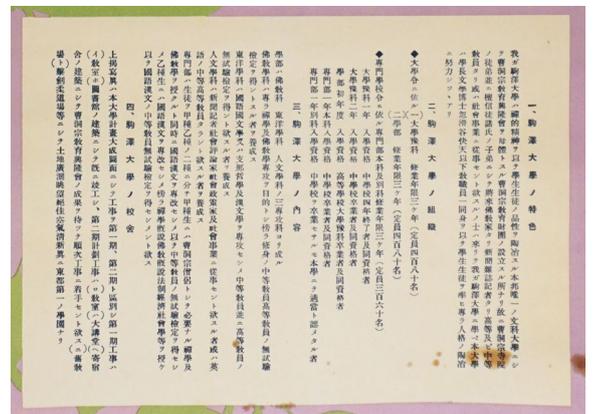


昭和12(1937)年 整備が整った実際のキャンパス
※図書館(現当館)屋上より撮影

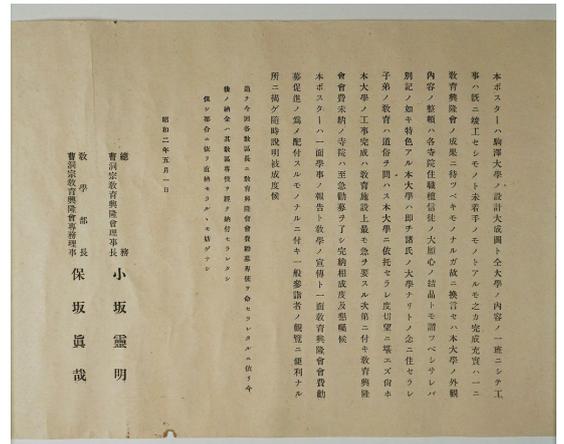
※これらの建物は昭和54(1979)年解体され、3年後の開校百周年記念の本部棟・記念講堂などが建築された。



現在 同じ場所から見たキャンパス



ポスターの表書



ポスターの添書

駒澤大学ポスター表書

※読みやすさの便宜から平仮名遣いで表記し、旧字、異体字等は常用漢字に改め、適宜句読点・ルビを施した。

一、駒澤大学の特徴

我が駒澤大学は、禪的精神を以て学生生徒の品性を陶冶する本邦唯一の文科大学にして、曹洞宗教育興隆会を母体とする曹洞宗教育財団の設立するところなり。故に曹洞宗寺院の徒弟並に檀信徒諸氏の子弟にして将来仏教育家たり、新聞雑誌記者たり、高等及び中等教員たり、或は社会事業に従事せんと欲するの士は来りて、我が駒澤大学に学べ。本大学は学長文学博士忽滑谷快天以下教職員一同身を以て学生生徒を率い、専ら人格の陶冶に努力しつつあり。

二、駒澤大学の組織

◆大学令に依る(一) 大学予科 修業年限三ヶ年(定員四百八十名)

(二) 学部 修業年限三ヶ年(定員四百八十名)

◆専門学校令に依る 専門部本科及び別科修業年限三ヶ年(定員三百六十名)

大学予科一年 入学資格 中学校四年修了者及び同資格者

大学予科二年 入学資格 中学校卒業者及び同資格者

学部初年度 入学資格 高等学校・大学予科卒業者及び同資格者

専門部一年本科入学資格 中学校卒業者及び同資格者

専門部一年別科入学資格 中学校を卒業せざるも本学にて相当と認めたる者

三、駒澤大学の内容

学部は仏教科 東洋学科 人文学科の三専攻科より成る。

仏教学科は専ら禅学及び仏教学専攻を目的とし、傍ら修身の中等教員・高等教員の無試験検定を得んとする者を養成す。

東洋学科は国語・国文学又は支那哲学及び漢文学を専攻せしめ、中等教員並に高等教員の無試験検定を得んと欲する者を養成す。

人文学科は新聞記者・社会評論家・社会政策家及び社会事業に従事せんと欲する者、或は英語の中等・高等教員たらんと欲する者を養成す。

専門部は生徒を甲種乙種の二種に分ち、甲種生には曹洞宗僧侶として必要なる禅学及び仏教学を授けると同時に国語・漢文を専攻せしめ、以て中等教員の無試験検定を得せしめ、乙種生には国語・漢文を専攻せしめ、傍ら禅学概説・仏教概説・法制経済社会学等を授け、以て国語・漢文の中等教員の無試験検定を得せしめんと欲す。

四、駒澤大学の校舎

上掲写真は大正大学計画大成図面にして、工事を第一期、第二期と区別し、第一期工事は(イ)教室(ホ)図書館の建築にして既に竣工し、第二期計画工事は(ロ)教室(ハ)大講堂(ニ)寄宿舎の建築にして、曹洞宗教育興隆会の成果を待つて順次工事に着手せんと欲す。(二)旧教場(ト)撃剣柔道場等にして、土地広潤、眺望絶佳、空气清新、真に東都一の学園なり。

駒澤大学ポスター添書

※読みやすさの便宜から平仮名遣いで表記し、旧字、異体字等は常用漢字に改め、適宜句読点・ルビを施した。

本ポスターは駒澤大学の設計大成図と同大学の内容の一斑にして、工事は既に竣工せしものと未着手のものともあるも、之が完成充実は一に教育興隆会の成果に待つべきものなるが故に、換言せば本大学の外観・内容の整頓は、各寺院住職檀信徒の大願心の結晶とも謂つべし。されば別記の如き特色ある本大学は即ち諸氏の大学なりとの念に任せられ、子弟の教育は道俗を問わず、本大学に依託(託)せられたく切望に堪えず、尚お本大学の工事完成は教育施設上最も急を要する次第に付き、教育興隆会会費未納の寺院は至急勸募を了し、完納相成りたく懇囑に及び候。本ポスターは一面学事の報告と教学の宣伝と、一面教育興隆会会費勸募促進の為め配布するものなるに付き、一般参詣者の観覧に便利なる所に掲げ、随時説明成されたく候。

迫て今回各教区長に教育興隆会会費勸募専使を命ぜられたるに依り、今

後の納金は其教区専使を経て納付せられたし。

但し都合に依り直納せらるるも妨げなし。

昭和二年五月一日

総務

曹洞宗教育興隆会理事長

小坂 靈明

教 学 部 長

曹洞宗教育興隆会理事

保坂 真哉

①昭和4(1929)年頃
確認できる最古の写真。
禅研究館横のスロープ付近
と推定される。かつてはこ
のあたりに正門があった。



②平成27(2015)年頃
現在の図書館の場所にあった「大学会館」の
前にあった。①より数m正門寄りに移動。



「駒澤大学」の門柱今昔



③令和4(2022)年以降
新図書館棟の開館に伴い、
②より数m正門寄りに移動。

門柱秘話

「駒澤大学」の門柱は、大正7(1918)年3月に建てられたという(『駒澤大学百年史』上巻、322頁)。

門柱は9寸角(約27cm)で、高さは9尺(約270cm)に及んだ。費用は45円であった。当初は「曹洞宗大学」と刻まれていた。一説によれば、大正12(1923)年の関東大震災によって門柱が倒れ、折れてしまったという。そして、大正14(1925)年に曹洞宗大学から駒澤大学へと大学名を改称したため、のちに門柱の文字を「駒澤大学」へと刻み直したという。

なお、現在の門柱の高さは約216cm(台座の高さ含めず、台座の高さは約28cm)である。

大正時代に昇格した仏教系大学の変遷



※【】内は系派を、()内は大学昇格年を表す。

大学に昇格して何が変わったの？

～曹洞宗大学(専門学校)と駒澤大学(旧制大学)のちがいを～

①国立学校に準じ、学位の授与を行うことができるようになった。



②国立学校に準じ、新学期が9月から4月になった。



③文学部が創設され、寺院出身者以外の一般学生が入学できるようになった。

旧制大学時代の学部学科



現在の文系総合大学の基礎が形づくられた

④(オマケ)略称「曹大」が「駒大」になった。



駒澤大学の校旗 大正 14(1925)年制定
「大學」をデザインした現在の校章となっている。



曹洞宗大学の校旗 大正 3(1914)年制定
両端に「曹洞」の文字、中央に「大學」がデザインされている。